
X・B・S **こなたとかがみ、つかさとみゆきの場合**

セイバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

X・B・S こなたとかがみ、つかさとみゆきの場合

【Nコード】

N3944P

【作者名】

セイバー

【あらすじ】

聖なる夜の愛の物語。それは王様ゲームから始まった。クリスマス小説第七弾です。

かがみ

「おーす」

いつものようにこなたたちのクラスに入ってきたかがみ。そのかがみの手にはノートが握られていた。

こなた

「やーやーかがみん。待ってたよ」

つかさ

「お姉ちゃん、予定表は持ってきた？」

かがみ

「もっちろん！！」

みゆき

「それでは確認しましょう」

かがみは先ほどのノートを開き、さまざまなことを書く。ケーキのサイズや料理、ジュウースの本数など、そしてパーティの内容も書かれている。

こなた

「後はこれをみさきちやゆうちゃん達に知らせるだけっ」と

つかさ

「それじゃ、今日は解散！」

とまあそんな感じで今日は12月23日。明日はクリスマスイヴなのでパーティの内容を確認していたのだ。他にもあやのや、みなみ、教師のななこ、ひよりにパーティといったメンバーも参加するのだ。

そして12月24日、クリスマスイヴ、パーティに招待されたメンバー全員は、高良家に集合していた。

みさお

「おーし、みんなーいるかーい？」

全員

「イエーイー」

みさお

「よっしゃ、早速だけど・・・始めるぜーイー」

こうしてクリスマスパーティーが始まった。皆はケーキやサンドイッチ、七面鳥といったパーティ料理を食べ、プレゼント交換を行った。ちなみにかがみの手に入れたプレゼントは、こなたの `soul eater` のブレアの帽子である。（笑）

かがみ

「なぜに・・・」

みさお

「よーっし、お次は王様ゲームやろーぜ」

ゆたか

「王様ゲーム？」

ひより

「王様になった人の言うことをなんでも聞くあれッスか!？」

あやの

「そうみたい・・・」

ひより

（はっ、それじゃ・・・もし私が王様になったら・・・）

ゆたか

「みなみちゃん・・・」

みなみ

「ゆたか・・・」

王様ゲームでの命令とはいえいい雰囲気の二人。そして・・・二人の影がひとつに・・・

ひより

（うああああー、自重しろー、私ー）
いつものように混乱するひより。まあこなたとパティにはモロバレだが。

ななこ

「それじゃあまずウチや。七番と五番がDRAGONBALLのフュージョンをやってやー」

ゆい

「おつ、七番ビックリだ」

みさお

「五番はあたしか……。んじゃ…」

ゆい&みさお

「フュージョン！はっ！」

ゆいとみさおはフュージョンを行った。

みさお

「おつしゃ、あたしだ。二番と四番！物まねしやがれってヴァ！」

こなた

「二番こなたいきまーす。絶チルの明石薫。サイキックキーク

！！」

つかさ

「どんだけー」

みゆき

「四番は私ですね……。ダブルオーの絹江さ「みゆきさん……。それだけはやっちゃダメ。作者キャラ知らないし……」えっ！？でもこれしかネタは持ってませんし……」

そして……

こなた

「やった――王様だ――！」

かがみ

「はしゃぐな」

こなた

「それじゃ命令。一番と七番は好きな人にキス！」

柊姉妹

「「ええっ！？」」

いきなりの命令に戸惑う柊姉妹。

みさお

「えっ、てことは柊達か？」

つかさ

「う、うん……。そ、それじゃ」

つかさはみゆきに、かがみはこなたに近づいた。

みゆき

「ええっ／／／／」

こなた

「ま、まさか……。／／／／」

そして、その考えは当たっていた。つかさはみゆきの、かがみはこなたの唇にキスをした。

つかさ

「んっ／／／／ぷはあ」

かがみ

「んっ／／／／はあ……。こ、これでいいでしょ／／／／」

こなた

「う、うん。別にいいけど……。かがみん、私のことが好きなの？」

かがみ

「うん。でも言い出すチャンスがなくて……」

つかさ

「ゆきちゃんは私のことが嫌い？」

つかさはウルウルとした目で、みゆきを見つめる。

みゆき

「い、いえ／＼／＼（カ、カワイイ……。カワイイですよ……

・）」

つかさ

「良かったー。ゆきちゃん、これからもお願いします」

みゆき

「はい」

こうしてカップルが一組完成した。そして、

こなた

「そっか。かがみの愛伝わったよ。私もかがみが好きだよ。私と付き合って」

かがみ

「こなた……。うん！よろしく！」

こうして二組のカップルは抱き合った。メンバー全員はカップル成立に拍手の嵐を起こした。ひとりスケッチしてるものもいるが。（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3944p/>

X・B・S こなたとかがみ、つかさとみゆきの場合

2010年12月30日20時07分発行